



## 漫 録



# 土木部課長の異動を見て

丹 波 浪 人

▽土木技術官界永年の懸案であつた、府縣に土木部を増設する問題は、内務省唐澤土木局長の例の牙腕に依つて解決され、新潟縣外五縣に土木部が設置された。齋藤内閣が成立して間もなく府縣の土木部課長の異動があるとは屢耳にしたが、夫れが今まで行はれないで土木部問題の解決と同じ時に實現されたのは、當局の用意の程も窺はれて恒例に依

る交迭とは違つて味のある遣り方であるが、さて其の内容はどうであらうか。

▽隠退組の五人男、部長では京都の村山喜一郎君、愛知の宮島三郎君、課長級では長崎の楠宗道君、埼玉の田中三郎君と宮崎の山田一郎君を數える。

▽村山君は、政友會内閣の末期に復活し現内閣の成立の翌

日京都府土木部長の職に就いた位に際どい間を潜つて復活した人、そこには君を援助する政界の重鎮がゐることを悟らしめる。で、君に勇退を慫慂することは頗る難事であつたらしいが、君も曩に復活したことに依つて、會つて佐上知事が鹹首した鬱憤を晴し得ただらうし、復活後計畫した



村山君

京鶴間國道の改良も手についたので勇退したのであらう。併し四十一年組の君に勇退を勧告した内務本省には、まだ君の大先輩が幾十

人と竝んでゐる筈、是等の連中を此後如何に捌くかに依つて、今回の異動の効果が判定される譯である。筆者は君の復活に方つて苦言を呈したことがあつた、夫れも我が土木技術界に活力を入れたかつた所望の一端に過ぎなかつたのである。いま君の退官に方つて一切之を精算し君の自重を祈る。

▽宮島君は、村山君と同じ四十一年組ではあるが、村山君

のやうに中途退官の浮目にも遭はず、學校を出てから今日まで二十五年の長い間地方廳を轉々として來た。岡山縣土木課長時代に知事三邊長治と相知り、彼が内務省土木局長と爲つて土木主任官の異動をやつたとき、君を現地位に据えたものであつた。其のやうな譯で内閣が變ると前途を案じる組の一人であつたが、友人遠藤柳作が愛知縣知事となつて來る、其の後には恩人三邊が知事となつて來ると言つた調子で、官界稀に見る幸運兒である。此幸運の境遇を去らしむに就ては、唐澤局長の頭を惱ましたかどうだかは知らないが、村山君の退官と相竝んで後進の途を開くであらう



宮島君

唯だ君の退官に依つて、此後開かるべき土木主任官會議に本省の連中を揶揄する人が居なくなつたことは何となく淋しい感がある。併し退官後俳人千轉子としての君は、又々幸福な運命を迎ることであらう。

▽楠宗道君は、四十三年の京大出であるから何も慌てゝ退官する必要もないやうである、併し君の官界生活は宮島君とは違つて餘り恵まれてゐない、大正十三年のとき岡山縣土木課長時代に讖首されたこともある、夫れを第一技術課長前川さんの推薦に依つて、現地位に復活したと言ふ悲史の持主であつて同情に耐へない。

君の性格は餘り冷靜に走つてゐる、土木の豫算を懸會に提案し、事業に伴ふ歳入豫算が提案されて無かつても、夫れは地方課に於て措置すべきものだ、漁港の岸壁が沈下しても夫れは實地を知らない監督官廳が餘り設計に干渉する勢だ、と。吾不關焉の態度でゐる、夫等の冷靜的態度が崇つたのでは無からうか、鈴木知事とも性格が合はないのは他にも原因するだらうが、之も一つの原因であらう。併し職を官に奉ずるが爲に愛妻を東京に残し、遠き長崎に空閨を守つてゐるよりは、退官して眞に温き家庭の人と爲るこそが、人間稱としての探るべき道であらう。

▽田中三郎君の退官、酒豪田中の綽名があるだけに酒をや

つた。その崇りかどうかは知らないが、近年病を得て昔の元氣を見ることが出来なかつた、今回の退官も其の勢であらう。併し夫れでなくても明治三十九年の東大出であるから順序からしても退官組の一人に數えらるゝのも己むを得まい。



田中君

彼は或る一面に於ては恵まれぬ男と言つても可い夫れと言ふのは會て政友會内閣時代に愛知縣土木部長と爲るべかりし運勢にあつたのを、内閣交迭の爲に三重に遂はれ、夫れからは餘り香しくない岡山、岩手に奉仕して去年始めて埼玉に來た位であるからだ。併し若し愛知縣土木部長に爲つてゐたら、もつと早く退官の浮目に遭つて東京市と國庫との二つの恩給を貰ふことが出来なかつたかも知れない、物は思ひやうに依るのだから或は恵まれた男とも言ひ得やう。

東海道が木曾榊斐長良の三川を渡つてゐるところに、架

橋工事が始められ其の一つは大半完成してゐる、内務省の築道工事の完成と相俟つて、此邊の東海道は近代的なものに爲る、此事業の促進に力めたのは田中君であつた。最初愛知縣は架橋位置が縣の一隅にあるのと架橋の利益が三重に歸すると言ふので餘り賛成しない、そこで政治技師の田

中君は、三川架橋期成同盟會を組織せしめて、愛知縣に對して頻に架橋の陳情を爲さしむるやら、繼續費豫算を繰上げて着手せむとしたことが、今日架橋工事を見る重大原因を與へたのである、退官前に勅任待遇と爲つたのも、必ずしも恒例事と言ふべきではない、血壓の如き餘り心配すれば際限のない事柄だ、柄にもない神経を尖らさずに、惠まれた地、浦和で保養することだ。



山田君

▽山田一君、熊本縣に居居つてゐた君が、現地位に就いたのは、昭和四年のことであつた。美々津橋の架橋では随分苦勞もし、前長官

木下義介にも土木事業を献策し大に力めてゐたが、餘り献策し過ぎた勢か、帝國議會で土木費の雜費亂用問題で論議されたやうなこともあつた、明治四十一年大學出の連中が退官する位だから、四十年熊高出の君が退官するのも亦已むを得ないであらう。



來島君

▽來島良亮君の東京府土木部長から内務技師への還元少々の意表に出た、彼が内務技師として雄物川改修工事の主任から現職へ轉じたとき、内務技師と地方技師との共通制度が出来たを喜ぶもあれば、比較的世情に疎い直轄工事に従事する技師が、煮ても焼いても喰へない府會議員を甘く操縦するだらうが、いや彼は秋田市會議員をしてゐたから彼等と同じ仲間ぢやと、區々に囃されたものだつた、在職滿五年何の非難もなく東京府土木行政を執行した、是からも爲すべき多くの都計事業があるに不拘、元の内務技師に還るとは、近頃よく

流行する本人の轉向か、夫れとも市域擴張のために府の事業が減少して事業が消極的になつた勢か判らないが、彼が技術官型を破つて政治技師的に行動した祟りも手傳つてゐることは確實だ、併し人が所期してゐるやうに、近く内務技師の大交迭があれば勅任所長になる準備だとも解せられる、其の何れにして、彼は在職中に随分大きな仕事を執行した、殊に市域擴張の場合に於ける府の道路執行權を立法の手段にまで訴へて維持したことは、彼の個性的手腕の表はれであつた。お蔭で數百の職員は彼の手に依つて失業を免れた、仙臺出張所へ行つて何を策するかは、蓋し此後の見ものであらう。

▽大阪府工營課長から内務技師に爲つた和田重辰君は、榮轉組の一人に數へても可い、彼は大正七年の東大出、復興局技師を長くやつてゐた勢で、地方廳の事務には餘り通じてゐない、併し義兄に山田博愛を持つてゐるから甘く指導して貰ふ爲か餘り尻尾も出さなかつた。唯だ頭が冷靜で純技術官型であるから、今の内に内務技師になつて本領を發

揮するのが自他共に得策であらう。

▽金子源一郎君が東京府土木部長に昇格した、此度の異動での最高利得者と言つても可い。併し同期の三輪周藏君や吉岡計之助君が遠の昔に部長に爲つてゐることに比較すると、格別の昇格とも言へない當然の順序を踏んだやうでもある。彼が復興局時代に道路地下埋設物に關することを研究して道路通になつたのが幸福の基、復興局の廢止に伴つて東京府廳に這入つたが、そこには古くから同期の藤田周造がゐた、併し洋行中だつた爲かどうかは判らないが藤田



金子源一郎君

に失敬して道路課長になつた、實際東京府の土木事業は都計に屬する道路事業が大部を占むるから、勢ひ道路課長の方が花役と爲るか。然らだ、金子君は來島部長の指揮の下に能く働いた、常に惠比須顔で濃厚味を見せて居るが、問題に熱中して來ると辯舌爽に論じ立てる程の熱血味もある、道路法の特例に關

する法律提出のときなど大いに働いたものだ。其の手腕が認められて今日の地位に就いたものと言つて可い。併し眞の腕を振ふのは此後であるから自重するが肝要であらう。

▽中川幸太郎君の京都府土木部長も可い役割である、彼は  
大正三年出であつて到るところ相當の成績を擧げてゐるが  
いつも不遇で長崎から鹿兒島に轉じたときなど憤慨したも  
のであつたが、鹿兒島では大島救濟事業を計畫して市村長  
官に信用された、夫等のことから彼の眞價が是認され此度  
の地位を得たのであらう。行く先、京都の土木界は京大出  
身者を以て構成してゐる、そこへ東大出の君が踏み込むの  
であるから、永い間田舎廻りをして少々御代名式になつて  
ゐる癖を捨て乾兒を引張つて行くことをやめなければ、氣  
の小さい京都人間は難癖を附けて追出すかも判らない、用心  
が肝要だ。

▽栃木の川越篤君が、愛知縣土木部長の椅子を占めたのは  
人をして驚かしめた、明治三十九年の京大出身だから、卒業

年次からすれば今頃土木部長になるのは當然過ぎる程當然  
事である、併し四十一年出の宮島君が退官した後へ先輩の  
君が轉じたことが人をして驚かしむる種となる、是も永年  
地方土木に従事した君の勞に酬ゆる唐澤局長の溫情の表は  
れであらう。君は職務に對しては程度を超過した程に熱心  
である、併し其の熱心を部下に強要することは人を使ふ上  
長として餘程考へなければならぬ、自分が夜の十二時まで  
仕事をすると言つて、土木課員の全部に對して之に習へと  
言ふことは無理である、又仕事にしても各自の分擔がある  
ことで自分一人の手で執行しやうとする如きも亦無理が出  
来る、大底のことは部下に任せて總括的決斷を早くするこ  
とに在る、任地愛知は栃木と情勢が著しく違ふ、ややとも  
すれば彼の陥り易い消極的態度を捨て、積極的にやらなけ  
れば榮轉の効果を收めないであらう。

▽山口十一郎君の廣島縣土木部長も可い人事と言つて可い  
君は大正四年の九大出身だから順序に於ても缺くるところ  
がない、内務技師としては宮城縣岩沼町の鋪裝工事に従事

してゐたが、東北方面殊にそこで直轄工事に埋もらしておくのは惜しいと言ふので地方に進出せしめたのだらう、純真な技術家型だ、併し夫れと言つて往々に見るやうな變人ではない、で土木部長としては適任である、併し廣島はどう言ふ譯か判らないが代々の土木課長は皆追ひ出される上野君、横山君、後藤君皆そうである、擔き屋は廣島は鬼門と言つてゐるが、土木課長ばかりが鬼門でもあるまい、湯澤長官は人も知る前内務省土木局長、土木行政に精通し氣概を以て鳴る人、彼氏の指導に従つておれば人間としては勿論のこと、土木行政に精通し得るだらう、初代土木部長として追ひ出されないやうに働くことが肝要。



川 上 川 國三郎君、静岡の木村憲七郎君、長野の兒玉靜雄君、宮城の伊藤駿君、福岡の坂本一平君は、何れも必然的土木部長と言ふべきもの、



兒 玉 君



伊 藤 君



坂 本 君

蓋し土木課が土木部に爲つても従来の土木行政が増加した譯ではなく、課長として勤まつた者は部長も出来る當然事であるからだ。併し是れだけでは何の新味もない、全國の土木部長を全望して、そこに適任者を配してこそ異動の價値を見ることが出来る、新潟の川上君にしても明治三十八年の出身、今頃に土木部長になつても餘り難くもない年齢だ、當然乃至必然的の昇格は考へものだ、勿論今は時局匡救土木事業の最中で人を異動せしむることは不得策だと言ふ考察もあらう、豫算編制期だと言ふ理由もあらう

併し人心を新にする爲に異動せしむるのなら一步を進めて全國的考察の下にやつたならば一層の効果を收めたことであらう。

▽川上君外四君のことは毎度筆にして言はず御馴染であるから事新らしく評するの必要はない、唯だ福岡の坂本君を部長として居握らしめたことである、之は事の實質を尊重する唐澤土木局長の眞意の表はれであらう。官僚の多くは帝大出を尊重することを以て人事上の憲法と心得てゐる、此考察で仕事が出来得やうか出来まいか、唯だ大學を出たと言ふ看板に依つて人の手腕能力を評價する、そこに大きな間違が起る、夫れを秘書官時代から體驗してゐる唐澤局長は、人事に關し時に實質主義を採る、之を最近の事例で話すと、曾て安達國同總裁が八聖殿にお祭する八聖人の像を彫刻せしむる名手を物色し、所謂當世流行の畫伯のみを選択した、其のときのこと、唐澤局長は安達總裁に質問し、小泉三申老は參與官も政務次官もしたことがないのだが、先生は彼に大臣になる資格がないと考へられますかと、安

達總裁イヤ彼は大臣以上の人だと答へた。夫れでは神田清兵衛老はドーかと質すと、矢張り大臣以上の人ぢやと答へたそうだ。そこで局長は政界に於ても其の通りなら彫刻界に於ても矢張り同様で、流行畫伯以外にも天下の名手が居る、私の推薦する無名青年こそ先生の言はれるやうな大臣以上の人だと言つて清水多可示君を推薦し、いま總裁は無名青年畫伯の手腕に舌を巻いてゐるとやら囃されてゐる、夫れ位に唐澤局長は實質主義の人である、坂本君が熊本高工の出身であるに不拘、官僚一派の思想を排して彼を土木部長としたことは、獨り坂本君の爲ばかりではない。一般に高工出身者の爲に榮進の領域を擴張したものと云つて可い、今回の人事の一大傑作である。

▽群馬の中村孫一君の長崎への轉勤、人練の關係で已むを得なかつたにしても、餘り見榮えのする轉任ではない、殊に彼は東京近くに居りたい私的事情もあつたであらうに、夫れを裏切られたことはお氣の毒でもある、併し彼の長い一生涯を通じて見れば可い旅かも知れない、任地長崎の



女は情緒濃艶とやら言はれてゐる用心して働くことが肝要だ。

▽東京府河港課長藤田周造君の埼玉縣土木課長は、榮轉と評しても可い、唯だ彼が居据りのまゝ土木部長に爲つた金子君と大正四年同期の卒業であるのに、一は部長に一は課長に出るのが不平であらう、併し部制の下に於ける課長は外部との接觸に於ても餘り責任がないので、責任ある課長として他縣へ轉ずるのも藤田君將來のため喜ぶべきこと、而かも鐵道電化のために帝都から三十分も要しないで交通し得る浦和に職を奉ずることは、餘り不平を漏す價値が無からう。



平川君

▽和歌山の平川保一君の群馬への轉任も必ずしも凡轉の範圍に入るべきではない、平川君が神奈川から和歌山へ土木課長として新任してからモ一四年になる、手習させて呉れた縣に餘り長く居

ると、人心が倦む夫れに活を入れて更正する爲他縣へ轉ずるのが自他共に利益である、和歌山では姑息ではあつたが随分澤山な道路を改良した、筆者が君にお願するところは、モ一尠し強腰になつて技術家の意見を強調することである、お勧めする譯ではないが内務部長と一戦を交すの時には面白いではないか。



横山君

▽横山喬君の香川から茨城への轉任、榮轉と言ふべきである、曾て廣島縣土木課長から香川へ轉じたときは随分不平を言つたものだが、香川での活動は今回の榮轉を當然とするに至らしめた。

任地茨城縣は、道路や築港を始め相當の工事があるのみか香川よりも縣財政が樂なところだ、廣島在任當時に貰つた消極居士の綽名を返上するのも此縣であらねばならぬ。

▽富山から栃木に轉じた春藤眞三君、是も亦榮轉組の一人

君の神奈川縣時代は濃厚な技術官としか見えなかつたが、



富山へ轉じてからは工學士法學士としての手腕を振ひ藤 だした、庄川問題の解決から富高間國道の改良と相當君 君の成績を收めてゐる、之を

見ると栃木よりはもつと上等の縣へ轉じて可い位だ、土木課長は技術非技術の両面に考慮して立ち働かなければならぬとすれば、君の如き法學を修めた技術家は最適任者である、此次の異動には川越君のやうに土木部長になる積りで更に活動することだ。



村 君、是も亦榮轉組の一人、部制の下に働いてゐる課長瀬 は、大樹の下にかくれてゐる様な蔭物で前にも言つたやうに責任が輕る過ぎる、

▽神奈川の道路課長から奈良縣土木課長に轉じた村瀬吉雄

だから部長の氣心も知らないで勝手な振舞をする者が多い

が村瀬君は眞面目な男だけに部長の命令を遵守して血を分けた兄弟のやうに振舞つた、従つて部下にも氣受けが良、併し夫れだけで土木課長は勤まるものではない、確固たる技術家の信念を實行するが爲には、時に喧嘩をも辭しない氣概がなくてはならぬ、彼は聊ともすれば喧嘩までして事業をやらなくても可いと引込思案をする癖がある、任地奈良には龜ノ瀬の費用分擔問題で大阪との係争事件がある之が解決には引込思案は禁物だ、三輪君に投げられないやうに禪を締めてかゝることが必要であらう唯だ神奈川で愛妻から授けられた運動神經を減退せしめないやうに頼む。

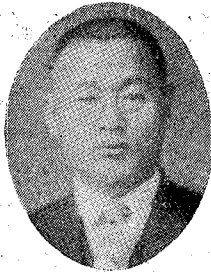


荒 君、木 何故に轉任せしめたのかと憤慨黨の一人から電話があつた位に、不思議がつてゐる、

漁港修築に従事する本省推薦の技師をお断りした酬か

ド！かは知らないが、マ！命令さるゝ儘に轉じて時機を俟つことだ、任地富山は茨城程に恵まれてゐないだけに、爲すべき多くの土木事業がある筈、夫れを片附けて積極的に行動することが必要であらう。

▽静岡から鳥取縣土木課長に轉じた三宅發造君、之は榮轉組の一人に數えて可い、彼は純眞な技術家である。夫れに貧乏な癖に政争を是れ事とする鳥取に初歩の土木課長として配するのは、残酷な嫌がする、有るか無いかは知らないが、此縣には技術のことは忘れかゝつたやうな、古老の政治技師を配することが適當であらう。



上 田 君

順當な榮轉と言つて可い、彼は大正七年の東大出身、  
田 負けぬ氣のある男、三重や  
君 岐阜では色々に評せられたが、京都府では兎も角課長の椅子を與へられたのだから不平のある筈はないのに矢張

り不平を漏してゐた、氣の勝つ勢であらうが、人生生活は相對的のものだと言ふことを再吟味することを忘れてはならぬ。島根には相當な仕事がある筈、不平を言はずに之を片附けて折角の拔擢に酬ゆることだ。

▽奈良縣土木課長から和歌山へ轉じた上田柳一君、之は餘り變り榮もしないやうだ、人練の關係で動かされたのならう、奈良では初歩の土木課長としては能く働いた、例の龜ノ瀬の問題でも君の勞苦による頗る多いと賞えられてゐる、任地和歌山の開發は道路の改良に俟つのだから大にやつて手腕を示すことだ。



後 藤 君

▽廣島から香川へ轉じた後藤季總君、氣の毒ではあるが左遷と言はざるを得ない、誰が斯くならしめたか夫れは問ふまでもない部下の行動である、土木俱樂部の連中は、曩に吉良外一人の技師を鹹首したのは片手落な人事だと言つたが、後藤君の轉任

に依つて喧嘩兩成敗と爲つた譯彼は純情な男であつて人間後藤としては立派なものである、而して彼は官吏としても上官に絶對服従主義の所持者であつて咎むべきではない。併しながら服従と意見の提出とは矛盾しないのであるから之を區別せなければならぬ、彼が部下から彈劾さるゝに至つた原因は、兩者を混合して絶對服従を部下に強要したに由るのである、彼が部下の意見を其の採否は別として聽いてやれば官吏道に反した彈劾を受けなかつたであらう程に惜しいことをした、任地香川でも従來の態度を改めなければ矢張り同じことを繰返す必定だから自重するが肝要である。



河合君

と、かして活動したいものと急いだらしいが、縣財政は彼をして手も足も束縛したかの感がある、言はゞ活動家努力家の君をして高知に



岸田君

幽閉せしめたと同しである、任地愛媛は財政も高知のやうではない、幽閉中に考へたところを愛媛に移して働くことだ。

▽同じ貧乏縣から貧乏縣の高知へ轉じた岸田正一君、筆者は氣の毒に感ずる、同期生中イの一番に土木課長と爲つたにも不拘、今頃になつて高知へ行かなければならぬからである。山梨でも最後は平田知事と相容れず鳥取でも政民兩黨の連中が區々の聲を放つた、そこに何か彼に缺點を有するのではないかと感ぜしむる、任地高知には爲すべき多くの事業があるが、財政的に何事も出來ない、此間は君自身の修養に力めて將來の大を期することが必要であらう。

▽兵庫縣の河港課長をしてゐた城戸鎖吉君が、宮崎縣土木課長に轉じた、開港場神戸から皇祖降臨の地に轉ずるのは都落ちの感がするであらうが、何と言つても一縣の土木課

長と爲つたのだから榮轉だ、唯だ宮崎は政争激甚の地だから初歩の土木課長としては六ヶ敷こともあらう、併し之も一つの旅だから若いところの御手並を見せる必要がある。

▽山陰の雪を見て暮すこと六年と嘆じてゐた竹内常八君が鹿兒島縣土木課長に轉じた、暖國氣分を好む人は榮轉と言ひ、嚴冬暖かさを忌む人は左遷と言ふであらうが、島根から鹿兒島は前課長の中川君が土木部長に榮轉しないと假定しても、矢張り島根よりは總ての點に於て恵まれてゐるから榮轉たることは言ふまでもない、島根では随分働いたらしいが財政が豊かでない爲に苦心した、併し君の手に依つて爲された近代道路は君の在縣を後世に傳へるであらう、任地鹿兒島は大島開發事業等随分大きな土木が計畫されてゐる、之に全力を傾けてゐる市村長官を補助して腕を振つて貰ひたい。

▽愛媛縣の土木課長から、靜岡の平ら技師に轉じた青木治助君、之は確に左遷されたと評しても誤はない、彼は四十二年の京大出身だから大正四年出の木村君の部長の下に働

かせるのは殘酷である、こと此處に至つたのは一戸長官が餘り彼を庇護し過ぎた勢だとも傳へられてゐる、また四十九歳の働き盛りであるのに、自發的に退官せねばならぬやうに仕向けられてゐる感がする、何故に此くならしめたか四十二年組と言ふ理由ならまだ外にも澤山ある筈だ、此度の人事異動は世評頗る良いとしても、青木君に對する措置は感心することの出來ない一つであらう。

× × ×

× × × ×